

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立第三藤田小学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒701-0221
岡山市南区藤田1757
 E-mail : fujita3s@city-okayama.ed.jp
 Website : http://www.city-okayama.ed.jp/~fujita3s/
 児童生徒数：男子 77名 女子 64名 合計 141名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ 農業 ）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

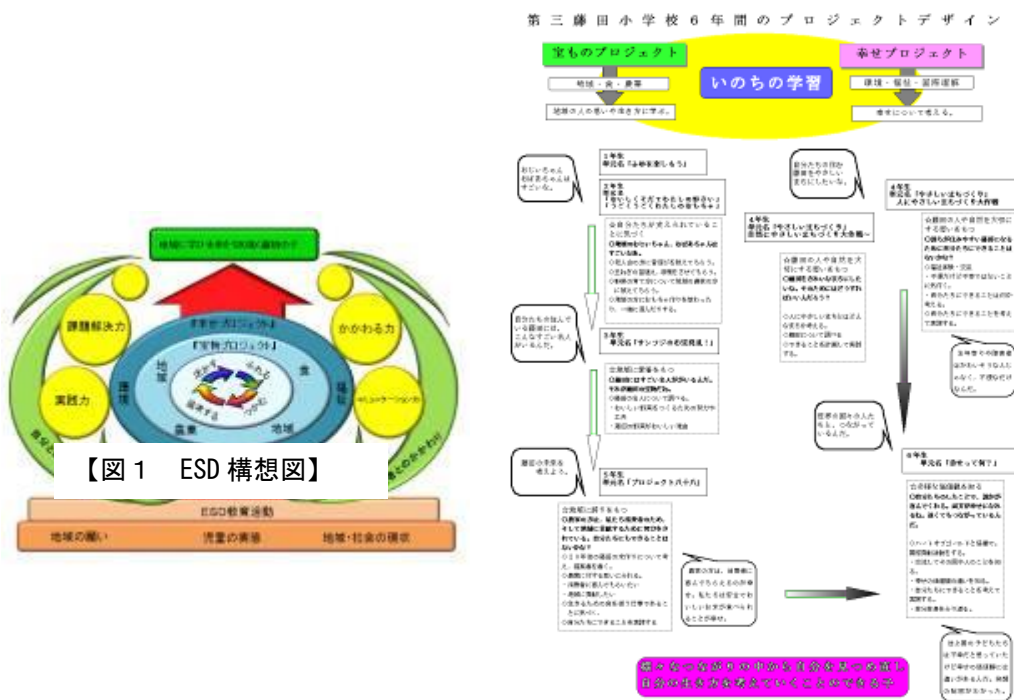
※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

【本校のESDの特徴と全体計画】

藤田地区コミュニティスクールスローガンである「地域に学び未来を切り拓く藤田の子」に近づくために、研究テーマを「人・社会・自然などと自分とのつながりに関心を持ち、主体的に関わろうとする子どもの育成」と設定し、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム開発を進めてきた。(図1)

各学年の単元を、大きく2つのプロジェクトと捉え、縦の系統を考慮して6年間のプロジェクトをデザインした。(図2) 地域・食・農業について学習していく中で、地域の人々の思いや生き方に学び、自分の生活をふり返る「宝物プロジェクト」と、環境・福祉・国際理解について学習することで、幸せについて考え、今の自分にできることを実践していこうとする「幸せプロジェクト」を設定した。それら2つのプロジェクトを通して、様々なつながりの中から自分を見つめ直し、自分の生き方を考えていく「いのちの学習」を構築し活動を進めている。



第三 藤田小学校6年間のプロジェクトデザイン



【各学年の活動】

3年生 【三藤の宝物をさがそう】

学区の農家を訪ね、いろんな名人に話を聞いたり、インタビューしたりした。その中(レンコン農家に注目し、藤田レンコンのひみつを調べたり、まとめたりした。また、地でとれた大豆を加工しているJA女性部の方の活動についてお話を聞き、自分たちも大豆料理に挑戦した。

- 1学期 イチゴ・タマネギ農家及び学区の探検
- 2学期 レンコン農家探検 レンコン調べ・インタビュー
レンコン料理に挑戦 大豆栽培
- 3学期 女性部の方に取材 大豆料理に挑戦
三藤の宝物についてまとめる

4年生 【やさしいまちづくり】

前半は、自然にやさしいまちについてみんなで考える。自分たちの住んでいる藤田は、自然にやさしいまちになっているのかを、みんなで調査し、自分たちはどうすればいいのかを考えた。また、興陽高校の「菜の花プロジェクト」や岡山市環境局のゴミ教室、環境学習センター「アスエコ」の事業や明和製紙のリサイクル教室など環境に関する様々な体

験活動にも参加し、自分たちでできる環境保全活動を考えた。そして、夏休みには各家庭で取り組めることを実践したり、妹尾川の清掃活動や環境美化啓発活動を行ったりした。

後半は、人にやさしいまちについて考えた。自分たちの住んでいる藤田は、人にやさしいまちになっているのかをみんなで調査し、自分たちにはできないかを考えた。社会福祉協議会の福祉体験教室や視覚障害者の方との交流、岡山一番街のバリアフリー見学を通して、自分たちにはできる活動を考えた。そして、冬休みには各家庭で取り組めることを実践したり、学区のデイケア施設の訪問を行ったりした。

- 1 学期 学区環境調査 岡山市環境局ゴミ教室
アスエコ・明和製紙紙リサイクル教室
興陽高校菜の花プロジェクト参加
- 2 学期 自然にやさしいまちづくり大作戦
岡山市社会福祉協議会福祉体験教室
(全3回：盲導犬・車いす・アイマスク・高齢者)
岡山駅や町のバリアフリー調査
- 3 学期 人にやさしいまちづくり大作戦
デイケア施設・老人会訪問
やさしいまちづくりについてまとめる

5年生 【プロジェクト八十八～藤田に農業は必要か？～】

社会科の学習や、地域の農家の方の話を聞く中で、農業の楽しさや農業の抱える問題について知り、「20年後の藤田の農業がどうなっているとよいか」について考えた。農家の方への取材や興陽高校の見学、バケツ稲による実験や学校田での栽培活動を通して米作りについて調べ、自分たちの思い描く未来の藤田の農業について提案書を作成した。その過程で、農家の方の苦労や工夫、農業に対する思いにふれ、自分たちにはできることを考えて実践したり、生活を振り返ったりした。

- 1 学期 農家の方のお話 バケツ稲で米作り
興陽高校アヒル農法見学
学校田での米作り(5～11月)
- 2 学期 JA 興陽高校 米農家にフィールドワーク
藤田の農業についての提案書づくり
- 3 学期 提案書の発表・意見交換
自分たちにはできることの実践

6年生 【幸せって何？】

NPO法人ハートオブゴールドの方に来ていただき、児童労働や奴隷、ストリートチルドレンなどの諸問題についてお話を聞いた。カンボジアの義足のランナーに地雷について話を聞いたり、同法人の設置した現地の教育・就業訓練施設であるニューチャイルドケアセンター(以下NCCC)の子どもたちに手作りのシュシュやミサンガを送り、スカイプによる対話などで交流を深めたりした。お話を参考に1回目の物資支援活動を行い、2回目はカンボジアの教育省の先生に相談しながら自分たちにはできることを考えた。ただ物資を送るのではなく、相手とつながり交流をしていくことで、新しい幸せに気づいたり、今までの自分の生活を振り返ったりした。

- 1 学期 世界の国々で起こっている諸問題について知った。
ハートオブゴールドの方のお話
ハートオブゴールド及びユニクロの活動に参加
1回目の支援活動
- 2 学期 1回目の支援活動の反省をもとに、これから自分たちにはできる活動を考え、実践した。
2回目の支援活動
- 3 学期 自分たちの支援がどう活かされたかハートオブゴールドの方から聞き、活動をまとめた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）